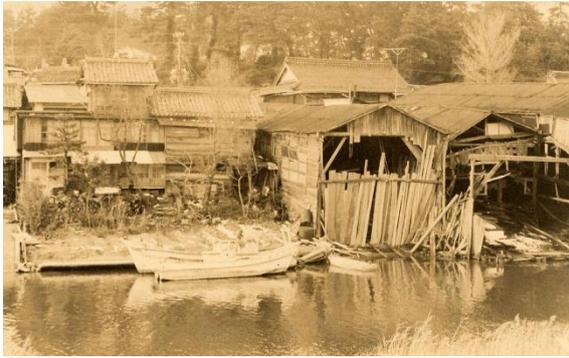




造船所跡



湖山川沿いの造船所 昭和 40 年頃

湖山川左岸（賀露町二区）には、昭和 40 年代初頭まで造船所が建ち並んでいました。

寛永 9(1632)年、初代鳥取藩主池田光仲公が岡山より御転封の際、初代大和屋分之丞が随徒し、賀露に転住して船大工を営業したとの記録があり、大和屋がこの地の造船所の起源だと考えられます。

大和屋は造船事業と併せて、文政元(1818)年から昭和 6(1931)年まで貸船（川船）事業を営み、鳥取平野の河川交通の重要な役割を担っていました。

寛政 5(1793)年の鳥取藩の調査では、鳥取藩の廻船は因幡国 155 艘、伯耆国 91 艘で、因幡の廻船のほとんどが賀露浦、芦崎（青谷）浦の船だったと考えられていることから、大和屋は川船や廻船を造っていたと考えられます。

明治に入り、制約が多かった交易が自由になり、因幡・伯耆最大の消費地である城下町を後背地に持つ賀露港は商港として発展します。

賀露校新聞第 12 号(昭和 24 年 12 月)には、「明治 10 年賀露に初めて造船所が出来た。石黒藤工門、石黒勝次郎、加納長三郎など三戸が出来、製材としては大和屋がつき屋を両かけで始め、現在では県下有数の造船所となっている」との記録があります。

明治中期以降、賀露港が商港から漁港へ変わり、造船業も廻船から漁船へと変化し、造船業は大いに発展しました。しかし 1970 年代の二度のオイルショックや漁船の減少により造船業は衰退しました。

昭和 42(1967)年に 4 社（石松、石圭、諸山、石藤）が企業合同して（株）鳥取造船工業となり、昭和 43(1968)年に千代川対岸に移転（平成 15(2003)年廃業）。現在この地は、住宅地となっています。



撮影 2016 年 8 月